

今年は夏が長かった分、秋は駆け足で通り過ぎたようです。そろそろ冬本番を迎えるこの季節、森の動物たちは冬支度も終えて、小春日和にちょっと一服、というところでしょうか。この秋は山の実りが豊かなので、人里へ出てくる熊が例年より少ないとニュースで報じられていましたが、住宅地の公園や並木でも、たしかに木の実はたくさん成っているようです。ナナカマドの赤い実を目当てにやってくる冬鳥の群れも、もうすぐ見られることでしょう。

「平岡どんぐりの森」の初夏～秋の活動をまとめた『どんぐりの森通信』第14号をお届けします。活動にご参加いただいた皆さま、ご支援いただいた方々、どうもありがとうございました。雪の季節の活動にも、どうぞご参加をお待ちしています。

❖❖❖ 07年6月～11月の活動から ❖❖❖

●ながぐつの土曜日

◆ トンボのいる水辺 (平岡公園) 6月9日(土)

初夏とは思えない暑さで幕開けした6月です。平岡公園のトンボ達も、早くも涼を求めるかのように水辺に集まって来ました。モイワサナエ、ヒガシカワトンボ、ヨツボシトンボ、エゾイトトンボ…。小川のように流れのある場所(流水域)と、池や沼のように流れの無い場所(止水域)とでは、生息するトンボが違うこと、初夏と盛夏では、トンボの種類も異なることなど、毎年ここでトンボを観察していると、色々見えてきます。子ども達は、トンボだけでなく、あちこちで「このバッタは何?」「虫の卵、見つけた!」と次々に大発見、そのたびに呼ばれる探検隊長『ゆうさん』も大忙し、あっという間の2時間でした。



◆ お魚たんけんたい (平岡公園) 9月8日(土)



8月に予定していた『平岡公園にぎわいフェスタ』が大雨の影響で中止になったので、9月のながぐつの土曜日は、公園管理事務所のご協力を得て、公園内の池と三里川支流での『お魚たんけんたい』になりました。

当日は台風接近のニュースに半ばあきらめかけていたところ、嘘のように晴れて参加者も30名以上、はりきって川に向かいました。池から三里川への排水路は、いつもより水量は多いものの、ながぐつでもOK。はじめは土手から水面に手を伸ばして魚を掬おうとしていた子も、いつのまにか水に入って、夢中になってタモ網をふるっていました。

それぞれバケツの中に自分の『戦果』を入れて、腕自慢です。みんなの採った魚を水槽に集めて、比較・観察。細かい違いの解説や、珍しい生きものの説明は『お魚博士』桑原さんをお願いしました。

フクドジョウ、エゾホトケ、エゾトミヨ、イバラトミヨ、トンボのヤゴ、カワナ、モノアラガイ、ミズカマキリやコオイムシなどなど、たくさんの魚や水辺の生きものが観察できました。

◆ おちばの森たんけんたい (平岡公園) 11月10日(土)

雪虫が飛び交い、頬にあたる風も冷たくて、帽子と手袋が欠かせない季節になりました。公園の遊歩道は、どこも落ち葉が厚く敷詰められて柔らかな踏み心地です。すっかり葉を落とした木々には、すでに来春にそなえて、しっかりと冬芽の準備ができていました。イタヤカエデやヤマモミジのV字型の実や、プロペラ付きのオオバボダイジュやシナノキの実もたくさん落ちています。真っ赤に色づいたミヤマザクラの葉や黄色のベニイタヤの葉…きれいな落ち葉を拾っていたら、たちまち手のひら一杯になってしまいました。

湿地では、水に浸った落ち葉の下から、大きなエゾアカガエルが顔を出しました!『早く冬眠しないと、凍っちゃうよ!』と、心配する子ども達の声に、あわてて木道の陰に姿を隠していました。

●アオサギの観察会 平岡コロニー(イオンSC裏の森)

3月4日に初飛来19羽確認！

例年よりも1週間程早く戻ってきたアオサギたち、その後も大勢が帰郷し、イオンSC(ショッピングセンター)裏の森にある平岡のコロニーでは、今年もにぎやかに子育てが行われました。

今年も平岡高校のご協力をいただき、アオサギ研究者の松長さんと共に高校の屋上からアオサギの子育ての様子を観察しました。



◆**4月27日** 強風に耐えながら抱卵している、たくましいアオサギたちの姿を観察。見える範囲で53個の巣を確認しました。

◆**5月25日** 卵から孵ったヒナの様子を観察しました。この時期には大きく成長したヒナが、例年よりも多いようです。観察会に初参加の方は、「こんな近くでアオサギを見られるなんて！子どもにも見せてあげたい。」と話していました。この頃になると平岡の上空では、餌を探りに飛んで行くアオサギの姿を1日に何度も見かけます。

◆**6月29日** 風がなく穏やかな観察日和、大きく成長した幼鳥の姿をゆっくり観察しました。飛ぶ練習をしている幼鳥もいれば、巣の中にはまだ小さなヒナも見えたり、子育てを始めた時期が異なるので、幼鳥の成長には1ヶ月位の違いがあるようです。今年もたくさんのヒナが生まれ、大きく成長して大空を飛び立ったことでしょう。来春も「平岡イオンの森」に元気なアオサギたちが戻ってくることを願っています。



➤➤ この夏、イオン平岡SCの増築計画が公表されました。私達はこの機会に、アオサギコロニーのある緑地の恒久的な保全にむけて確実な一歩を踏み出せるのではと期待し、札幌市にお願いもしたのですが、今のところ緑地については現状維持にとどまっているようです。増築計画をめぐる話し合いの中で、土地の所有者である(株)イオン側からは、この緑地が貴重な自然であることは十分認識しており、今後も保全していく考えであるとの説明があったのは、たいへん心強いことでした。イオン(株)さん、どうぞよろしく願いいたします！➤➤

●平岡公園ツリーウォッチング(秋編)

月に1回、平岡公園内を歩いて、樹木を中心に四季の移り変わりを観察する定例『ツリーウォッチング』。今年は5月から11月まで8回の観察会を催しました。秋のレポートを紹介します。

◆**10月17日(水)**12名参加(初参加2名)

「梅の香橋」から色づき始めた森を眺め、木々に残っている種を観察しながら自然林の方へ進んで行くと、枯れたカラマツが目立つ林床には真っ赤なベニテングダケなど多数のキノコが目につきました。毒キノコ！この大きなキノコは食べても大丈夫？ツリーウォッチングを忘れてすっかりキノコに夢中。このエリアはカラマツの倒木がめだち、樹種が少なく、他の木が育っていないのが現状。「森には色々な種類の木々が生育するのが望ましい。一部が枯れたり倒れても、直ぐに他の木が成長できる環境があってこそ、恵まれた良い森と言える。」とゆうさんの説明です。

冬のツリーウォッチングでは、間伐などの手入れが必要な場所で、公園事務所と協力しながら樹種や立木の数などの調査を予定しています。

◆**11月14日(水)**7名参加

木々はすっかり葉を落とし森の中は閑散として、あとは冬を待つばかり。すかさずの木々の間から時折日が差し、ほんのり幸せ気分！落ち葉を踏みしめながら今年最後のツリーウォッチングを楽しんだ。

落ち葉を観察しながら、これは何の葉っぱ？から始まって、木はどうして葉を落とすのか？シラカバとウダイカンパの違いは？おばさんたちの好奇心は膨らみ、その都度ゆうさんに質問を投げかけます。

針葉樹などの常緑樹は葉の開閉で体温と水分を調節している。冬の寒い日には、松などの葉の開き具合で外気温が分かるそう！朽ちた切株の中を覗きながら、木の生長する仕組みを学ぶ。外皮のすぐ内側の部分が、水分を運び栄養分を分解して、内側にセルロースを増やして太くなっていく大事な部分なのだ！ツルウメモドキ、コクワやツルアジサイ、イワガラミなどのつる性植物の違いや、スズメバチの巣を発見した時にはハチの生態まで、ゆうさんが分かりやすく説明してくれます。いつも丁寧にやさしく教えてくれる、ゆうさんに感謝！



●「森のタネを育てよう」 平岡公園小学校・ふれあい空間

◆10月13日(土) 風が強く、今年一番の冷え込みでとても寒い日でしたが、今年も参加した子ども達や親子連れとドングリなどを植え、ポット苗作りをしました。校庭の片隅に置いて大きく発育したサワシバ、ミヤマガマズミの苗は、株に分けてポット苗にしました。出来上がったポット苗は、学校の中庭で春を待ちます。

来年から取り組む平岡公園の新しいビオトープエリア(バタフライガーデン)に、育てた苗を植樹したいと思います。蝶が好きな樹種や植物などを増やしていこうと公園事務所と話し合っています。蝶が集まる公園作り、アイデアがありましたらお知らせ下さい。

●平岡公園ボランティア活動

◆10月17日(水) 人工湿地の除草作業(ヤナギの株、枝を除去)

公園事務所と協力してガマの葉の再利用を思案中です。除草作業の後に人工湿地に生えているガマを刈り取り、葉を1枚1枚はがし、排水路の水でぬめりを取る作業を行いました。葉を乾燥させ、小物入れやランチマット、ござなどを作ってみようと考えています。アイヌ民族の伝統的なござや織物はこのガマを利用して作られます。人工湿地に自生しているガマが増えてきており、除草して捨てられるガマの葉の有効活用を、来年は形にしたいと思っています。

◆11月1日(木) はらっぱ会議 冬のイベントや活動について話し合いをしました。活動予定は別途お知らせします。



今年植えた苗の種類と数

ポット苗: ドングリ 67 個 ルミノウシコロシ 5 個
株分け: サワシバ 53 個、ミヤマガマズミ 19 個
発砲スチロールのトロ箱: キハダ 1 箱

●水辺の生きものを見守る活動

◆ニホンザリガニの棲める沢を残そう … 激減したザリちゃん

私たちが住んでいる住宅地のすぐ近くの小さな沢に、絶滅を危惧されているニホンザリガニが多数生息しているのが分かったのが平成13年でした。沢の上流部にかかる道路工事がH15年秋からH16年にかけて行われましたが、この時は、道路工事によるニホンザリガニへの影響を危惧して、工法や工事の時期について札幌市や工事担当者の方との話し合いを重ね、また、沢上流部からザリガニをレスキューして下流部へ移動させたりと努力しました。

工事終了1年後のH17年10月には、札幌市と協力してザリガニのこの生息調査を(H17年の調査で撮影)

行ないました。土砂が溜まったり、水の流れが変わるなどの変化はありましたが、その時の調査では短時間でザリガニ131個体を捕獲し、生息環境が良好であることを確認しました。

ところが、昨年秋頃からザリ沢周辺で大規模な宅地開発が行われ、現在はすでに住宅建設がすすみ、めまぐるしく環境が変化しています。昨年秋には札幌市や建築会社、工事関係者と直接会い、ザリガニの棲む沢に影響がないようお願いしました。秋には調査は行ないませんでしたが、数ヶ所でザリガニの生息を確認しました。

今春、ザリガニに詳しいH氏から「沢でザリガニが見つからない！ 巣穴もなく様子がおかしい」という連絡をもらい半信半疑でしたが、その後6月5日にメンバー4人でザリガニを探したところ1匹も確認できず、危機感が募りました。9月19日にメンバー9名とザリガニに詳しい3名の12人で調査を実施したところ、沢で何とか2個体を発見！ 隣の沢では9個体を確認しました。巣穴もほとんど見つからず、絶滅ではないにしても、かなり危ない状況であることは間違いありません。

ザリガニを探している時にひょっこり顔を出したサンちゃん(エゾサンショウウオ)、近くの小さな池に棲むホトちゃん(エゾホトケドジョウ)、激減したザリちゃん(ニホンザリガニ)…危機に瀕した水辺の生きものたちの叫びが聞こえて来ようようです。

原因はまだ良く分かりませんが、来年も「ザリちゃん」に会うことができますようにと願うばかりです。

●フラワーソーンに参加 6月16日

4年に一度行われる、全道一斉の開花調査『フラワーソーン』に2度目の参加をしました。担当地区は東部緑地、半日で開花状態の花40種、開花前・後をあわせて65種を確認。今年の開花は早めだったようです。(参加者7名)

●身近な水環境の全国一斉調査 6月13日



平岡公園内の池、三里川支流など3箇所です簡単な水質検査をおこないました。

大曲川の右岸(北広島市)に雪捨て場ができて、川に雪解け水や融雪剤(たぶん)が流れ込んでいるのが気になりますが、夏の水質テストでは数値的な変化はつかめませんでした。今後も注意して行きたいと思います。





思えば私は、いつでもどこでもザリガニを探してきたようです。小学生の頃住んでいた北見では、夏は昆虫採集かザリガニ採りが最高の楽しみ。浜頓別で過ごした中学時代は、土器や石器を発掘するという趣味も加わりましたが、それ以外は川釣りかザリガニ採り。札幌の高校に入って生物部の部長という“地位”にまで登り詰めると、棲息地調査と称して放課後は毎日、野幌森林公園に出動。

こうしてザリガニ探しの技に研鑽を積んできたのでした。

その後数年間を東京で過ごして札幌に戻ると、またザリガニ探しが復活。仕事で地方に出かけるたびに、林道などを彷徨いつつ、沢を次々と“調査”して歩くようになってしまいました。これはもう習性というほかありません。

そして、絶対いる！と確信したところにまったく見つからなかったりすると、「いや、昔は棲息していたが森が伐採されたせいで絶滅した」「これはゴルフ場のせいだ」と、理由をこじつけたりしてしまいます。すでに棲息していることがと分かっているところでも、実際に確認せずにはいられません。

水中の石をはぐり、泥がさーっと流されたあとにじつとずくまるザリガニを見つけたときの感覚は、いつになっても変わることはなく、まさに宝探し気分です。



しかし子供のころとの大きな違いがひとつ。それは見つけたときの安堵感。まだ生きてくれたか・・・と、場所によってはホッとすることもしばしば。そして、このまま生き延びてくれよ、と願わずにはいられません。

以前ある出版社から、天然記念物のニホンザリガニの取材依頼を受けました。あまり知られていませんが、秋田県大館市(きりたんぼで有名。最近では比内島の偽装でも)にはニホンザリガニの棲息地南限があり、その個体群が国の天然記念物に指定されているのです。これは字のごとく、『地域個体群』としての指定。シマフクロウやタンチョウのように、どこにいても天然記念物として

保護される『種指定』とは違います。北海道全域を含め、指定地以外のニホンザリガニは『絶滅危惧種』ですよというだけで、採っても売っても食べても！残念ながら法的には問題ないのです。絶滅危惧種というからには、何らかの法的規制は必要だと思うのですが・・・。

話を戻すと、この取材依頼は願ったり叶ったり。「この仕事に俺以外に相応しい人間はいない！」と、狂喜乱舞？して行ってきました。秋田の帰りには青森も訪れ、道外の棲息地を訪れる良い機会になりました。

ところでなぜそんなにザリガニが好きなのかと良く聞かれます。これは難しい質問です。私は、基本的には生き物なら何にでも興味があるのです。しかし“興味がある”イコール“好き”というわけでもなく、実は毛虫やクモ、ガなどは苦手で、鳥や魚のこともよく分かりません。ですが興味はあるのです。何だかややこしくなってきました。

強いて考えれば、“体が固くて、安全で、手で捕まえて感触を確かめられるもの”が好きなような気がします。こう考えるとクワガタムシやカメも大好きなことにも納得です。とは言え、あまり触るような生き物ではないトンボもかなり好きだったりして、よく分かりません。

まあともかく、ザリガニがもっとも好きな生き物のひとつであることは間違いありません。そして誰も撮ったことがない生態を写真で記録・発表することは、写真家としてもっともやりがいのある仕事です。これがもっと収入に結びつければなお良いのですが・・・。

これまで各地でザリガニを探してきましたが、道内にはまだまだ調べてみたいところがあります。ニホンザリガニが棲む東北三県のうち、岩手の棲息地はまだ見ていないため、来年初挑戦の予定です。

そしてニホンザリガニばかりでなく、海外のザリガニにも興味があります。朝鮮半島に棲むチョウセンザリガニはニホンザリガニに酷似しているようで、是非見てみたいもの。人間だってそっくりですから、これはおもしろそうです。またインドネシアのジャングルには、体長 50 センチを超えるザリガニがいるらしく、これもいつかは攻略しなければ。

私のザリガニ探しは、一生終わりそうにありません。

(寄稿)

発行 平岡どんぐりの森 (代表 荒井美和子)

〒004-0033 札幌市厚別区上野幌 3 条 5 丁目 12-8

tel. fax 011-896-0058

